

長期戦略:テーマ 「カリキュラムの基本構造の改革」

提出日 2021年2月9日

担当部署

II.実施計画帳票

長期戦略テーマの責任者 (統轄部署)	宮田教務機構長 (教務機構)	実施計画の 担当部署	教務機構・総合企画部
-----------------------	-------------------	---------------	------------

1. 実施計画

実施計画(タイトル)	取組開始	達成状況 確認年度	学部・研究科での 取組み有/無	帳票
1-(3)-② (旧・中期計画:IBMとの共同事業を継承) AI活用人材育成プログラムの創設	2019年度	2021年度	必要なし	不要
内容				
<p>本学は、AIとして知名度の高いWatsonを擁するIBMと教育・研究にAIを活用する包括的な共同事業を2017年9月より開始した。</p> <p>2018年度は共同事業の一環として、「文系・理系を問わず、AI・データサイエンス関連の知識を持ち、さらにそれを活用して、現実の諸問題を解決できる能力を有する人材」＝「AI活用人材」を育成するための体系的な科目群(10科目)のコンテンツ開発を進めてきた。</p> <p>2019年度からは、共通教育センターを開講部局とし、共同事業のプロジェクトリーダーである巳波弘佳・学長補佐(理工学部教授)とも綿密な連携を取りながら科目提供を開始するにあたり、担当する非常勤講師を統轄し、AI活用人材科目群の科目運営やカリキュラムをコーディネートする教員、担当スタッフを配置し、安定的な運営を実現する。</p> <p>また、2021年度をめざし、「AI活用入門」等をe-learning化して、①関学生対象②他大学や社会人向け有償提供を行うプラットフォーム構想に取り組む。</p>				
進捗状況を測る指標	指標名	定義・算式		
指標1	AI活用入門定員充足率	当該年度のAI活用入門の履修者数÷履修者定員(480人)×100		
指標2	AI活用発展演習Ⅰ単位修得者数	当該年度にAI活用発展演習Ⅰの履修者の内、単位を修得した者の数(1クラス20人定員)		
指標3	AI活用発展演習Ⅱ単位修得者数	当該年度にAI活用発展演習Ⅱの履修者の内、単位を修得した者の数(1クラス20人定員)		

目標1<指標1> AI活用入門定員充足率

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
目標	60%	80%	100%	100%		
実績	100%					

目標2<指標2> AI活用発展演習Ⅰ単位修得者数

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
目標	—	15	30	40		
実績	—					

目標3<指標3> AI活用発展演習Ⅱ単位修得者数

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
目標	—	—	10	20		
実績	—					

2. ロードマップ

		2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
AI活用人材育成プログラムの創設・提供	策定段階	科目提供開始 教員配置	提供科目拡充 PBL科目実施 コンテンツ見直し	すべて開講 コンテンツ見直し	すべて開講	すべて開講 コンテンツ見直し
	2021年3月末段階	科目提供開始 教員配置	提供科目拡充 PBL科目実施 コンテンツ見直し カリキュラム改編			
		2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	-
	策定段階	すべて開講	すべて開講	すべて開講 コンテンツ見直し	すべて開講	
	2021年3月末段階					
		2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
AI活用人材育成プログラムのe-learning化プラットフォーム構想	策定段階	プラットフォーム構想の検討(フィージビリティ)	プラットフォーム構想の実現に向けた検討	関学生全員対象 e-learningの開始/他大学へのコンテンツ提供の開始	同左/コンテンツメンテナンス	同左/コンテンツメンテナンス
	2021年3月末段階	フィージビリティ調査を実施				
		2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	-
	策定段階	同左/コンテンツメンテナンス	同左/コンテンツメンテナンス	同左/コンテンツメンテナンス	同左/コンテンツメンテナンス	
	2021年3月末段階					

3. 費用計画・人員計画

【費用・人員を必要とする理由】							
非公開							
経費 単位:万円	2019年度 承認	2020年度承認	2021年度 承認	2022年度	2023年度	2024年度	左記以降
非公開							
人員・人件費 単位:万円	2019年度 承認	2020年度承認	2021年度 承認	2022年度	2023年度	2024年度	左記以降
非公開							

4. 進捗状況・得られた成果

2019 年度	<p>全学 A I 活用人材教育部会を開催し、AI 活用入門におけるクラス定員を増加した。</p> <p>AI 活用人材育成プログラムの e-learning 化プラットフォーム構想について、その提供手法や時期・システム構築・学内規則等フィージビリティ作業を行った。</p>
2020 年度	<p>クラス定員について、AI 活用入門で 70 人増（150 人定員 × 3 クラス）、AI 活用データサイエンス実践演習 I・II で 20 人増（50 人定員）にて開講した。春学期 AI 活用入門 3 クラス計の申込者数は、定員 450 人に対し 1,101 人であった。</p> <p>日本 IBM と協働し 7 つのテーマにて教材改修を行い、6 月に完了した。</p> <p>6 月教務委員会にて、2021 年度カリキュラム改編（3 科目の e-Learning 化含む）の承認を得た。</p>
2021 年度	
2022 年度	
2023 年度	
2024 年度	

5. 今後の課題及び方向性

2019 年度	<p>e-learning 化プラットフォーム構想について、2021 年 4 月より関学生向け提供が可能となるよう、授業のデジタル化やシステム構築を継続検討するとともに、他大学や社会人向け提供手法についても併せて検討する。</p> <p>カリキュラム改編を行い、2021 年度より AI 活用入門、AI 活用アプリケーションデザイン入門、AI 活用データサイエンス入門の 3 科目を e-Learning にて開講できるよう、教材の作成・デジタル化、プラットフォームシステムの構築・設定、TA チャットボットの構築に取り組む。</p> <p>AI に関する最新のトレンドやデータを反映し、また最新のアプリケーション仕様へ対応するため、引き続きコンテンツメンテナンスを実施する必要がある。</p>
2020 年度	
2021 年度	
2022 年度	
2023 年度	
2024 年度	

6. 学院総合企画会議の基本方針

2018 年度	「AI 活用人材育成科目」の授業担当者及び運営に関わる概算費用を承認します。なお、専任職員については、配置する方向で検討し、人事部にて対応します。
2019 年度	AI 活用人材育成プログラムの継続実施を認めます。 ただし、コンテンツメンテナンス費について、今後の頻度を含めた計画を定めてください。
2020 年度	AI 活用人材育成プログラムの継続実施を認めます。 学外展開も含めてフルオンラインコンテンツ化を進めてください。ただし、e-ラーニングプラットフォーム構想事業費のうち、レコメンデーション、DaaS 構築費用、プラットフォーム拡張費、および人件費の派遣職員 1 名の費用については、補助金が採択された場合のみ執行可能とします。
2021 年度	
2022 年度	
2023 年度	

7. Total Review の結果

【フェーズ I (2019~2021)】

レビュー結果	可 否	備 考 (継続:「フェーズ II に向けた課題」 廃止:その理由と今後の方向性)
<ul style="list-style-type: none"> ・2021 年度より、大学全学生が受講可能な e-Learning 化科目を開講し、社会のニーズに合った卒業生の輩出をめざしていく。 ・e-Learning コンテンツの企業・他大学等への提供の開始予定(2021 年 7 月)。 	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 ・ 廃止	<ul style="list-style-type: none"> ・AI 活用人材育成プログラムの修了者輩出に向けた方策の検討

【フェーズ II (2022~2024)】

レビュー結果	可 否	備 考 (継続:「フェーズ II に向けた課題」 廃止:その理由と今後の方向性)
	継続 ・ 廃止	